

4 荒尾干潟のラムサール条約登録について

平成 24 年 7 月、渡り鳥の重要な生息地である荒尾干潟が、ラムサール条約湿地に登録され、県内で初めて国際的に重要な湿地として認められました。干潟としては九州で初めての登録となります。

国際的に認められ「世界の宝」となった荒尾干潟は、私たち県民の誇りであるとともに、この貴重な干潟を保全し、後世に引き継いでいくことは私たちの責務でもあります。



荒尾干潟

1 ラムサール条約とは

この条約は、特に水鳥の生息地等として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物を、国際的に協力して保全することを目的としています。

1971 年にイランのラムサールで開催された国際会議において条約が採択されたことから、「ラムサール条約(正式名称:特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)」と呼ばれています。

締約国は、最低 1ヶ所の湿地登録を義務づけられており、その湿地及び動植物を国の法律により保全する必要があります。

2013 年 10 月現在、締約国 168 ヶ国、条約湿地数は 2,165 湿地です。

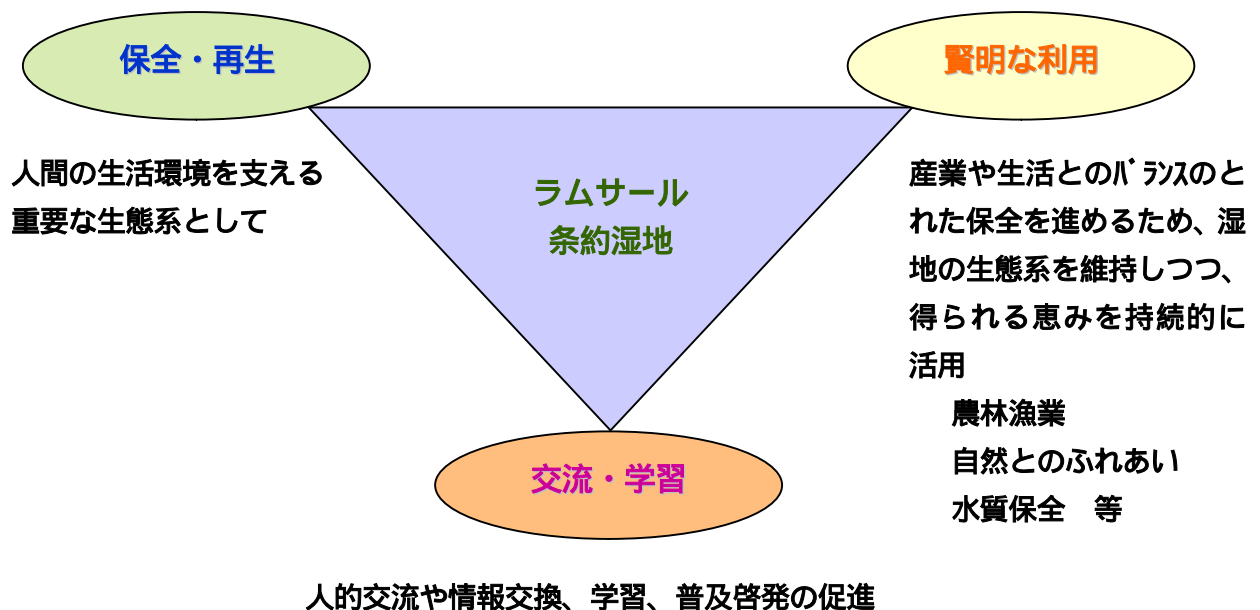
日本の登録要件

国際的に重要な湿地であること(条約で示された国際基準に該当すること)

国の法律により将来にわたり自然環境の保全が図られていること

地元自治体等の登録への賛意が得られていること

条約の基本的な考え方



2 ラムサール条約湿地荒尾干潟の概要

所在地：熊本県荒尾市

面積：754ha

保護の制度：国指定鳥獣保護区荒尾干潟特別保護地区

荒尾干潟が満たす条約の主な国際基準：

絶滅危惧種クロツラヘラサギの個体数の0.1%以上、絶滅危惧種ズグロカモメの個体数の1%以上を定期的に支える湿地

荒尾干潟は有明海の中央部東側に位置する、単一の干潟としては国内有数の広さを誇る干潟です。

有明海は、内陸に約100km湾入する細長い形状をした閉鎖性の高い内海で、多くの河川の流入と日本最大の干満差により、中央部東側と奥部は多くの遠浅の干潟が発達し、日本の干潟面積の約40%を占めています。

多くの河川からは、有機物を大量に含んだ土砂が運ばれ、この土砂が干満の差により絶えず巻き上げられています。

さらに、浮泥中の豊富な有機物を摂取して海藻や無数のプランクトンが生育し、干潟に棲むゴカイ類等の底生生物がこのプランクトン等を捕食し、さらに、シギ・チドリ類等の渡り鳥がその底生生物を餌にすることで多様な生態系が形成されています。

シギ・チドリ類は秋から春にかけて、荒尾干潟を中継地及び越冬地として飛来します。

秋季にはシロチドリ、キアシシギ、ダイゼン、トウネン、ソリハシシギ、メダイチドリ等、冬季にはハマシギ、シロチドリ、ダイゼン等、春季にはハマシギ、オオソリハシシギ、ダイゼン、キアシシギ等が飛来します。

平成20年には、環境省が実施したシギ・チドリ調査（春期）において、荒尾干潟（荒尾海岸）で全国2位の6,492羽が観測されました。また、国際的な絶滅危惧種であるクロツラヘラサギやズグロカモメの重要な生息地ともなっています。

3 荒尾干潟における生物多様性保全の取組

(1) 熊本県の取組

「ラムサール学びの海シンポジウム in 荒尾」

平成24年8月26日、荒尾市等と連携し、『国際的に重要な湿地「荒尾干潟」の生物多様性の保全と人との共生について考える』をテーマに、シンポジウムを開催しました。荒尾市民や県内外から多くの方が参加し、人と自然との共生について、活発な意見交換や議論が行われました。



シンポジウム

自然環境講座「荒尾干潟の観察会」

熊本の自然の特性や生物多様性保全について理解を深めるため、毎年、自然環境講座を開催しており、その一環として、荒尾干潟の野鳥や干潟生物の観察会を実施しています。

県内一斉清掃活動「くまもと・みんなの川と海づくりデー」

有明海・八代海再生に向けた県民運動の一環として、県や市町村などが主催し、住民や漁協、企業などと協働して川や海を一斉清掃する活動です。平成24年度は、約5万5千人が参加しました。

(2) 荒尾市の取組

「荒尾干潟の日」の制定

荒尾市では、荒尾干潟がラムサール条約に登録された7月3日を記念して、この日を「荒尾干潟の日」と制定。市では、「荒尾干潟の日」を中心に、干潟の重要性の普及啓発や環境保全活動等に取り組んでいくこととしています。

(3) 荒尾干潟保全・賢明利活用協議会の取組

荒尾干潟ラムサール条約登録記念式典の開催

平成24年8月26日、荒尾総合文化センターで、荒尾干潟のラムサール条約登録を記念して登録認定証の授与式や環境クイズ大会などが開催されました。荒尾市や県内外から約千人の方が参加し、式典を盛り上げました。

「ESDのためのKODOMOラムサール藤前干潟」に参加荒尾市内の小学生2名が、全国のラムサール条約湿地で環境保全活動に取り組む子どもたちの交流会に参加するなど、保全への意識を高めています。

荒尾干潟保全・賢明利活用協議会とは、荒尾干潟の保全や賢明な利活用（ワイズユース）について考えるため、平成24年4月に荒尾市や漁協などの関係団体で設立された協議会。

(4) 民間の取組

日本野鳥の会熊本県支部による野鳥の調査保全活動

日本野鳥の会熊本県支部では、1997年から荒尾干潟へのシギ・チドリ類のモニタリング調査や野鳥観察会を継続して実施しています。この活動がラムサール条約登録へとつながりました。

海岸清掃イベント「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in 荒尾」

コスモ石油と全国FMラジオ局では、地球環境の保護と保全を呼びかける運動を展開しており、この運動の一環として、平成24年10月に、荒尾干潟で清掃活動や野鳥観察等が行われました。



観察会



海岸清掃活動



荒尾干潟ラムサール条約登録記念式典



ESDのためのKODOMOラムサール

<藤前干潟>



野鳥観察



キャンペーン活動